

札幌新まちづくり計画市民会議 第1回全体会議概要録

■日 時 平成15年11月6日(木) 10:00～12:00

■場 所 すみれホテル 3階 ヴィオレ

■出席者 阿部一司委員・荒紀男委員・飯塚優子委員・伊藤淑子委員・岩田美香委員
内田和男委員・大坂紫委員・太田幸雄委員・大沼義彦委員・木路毛五郎委員
工藤仁美委員・黒田澄雄委員・柴川明子委員・杉岡直人委員・杉森洋子委員
高田悦子委員・田村丈生委員・燕信子委員・中井和子委員・中島洋委員
林雅之委員・平本健太委員 (欠席：臼井博委員・小林英嗣委員)

■次第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 委員、事務局の紹介
- 4 議事
 - (1) 座長及び副座長の選出
 - (2) 事務局からの説明・報告
 - (3) 意見交換
 - (4) 今後の会議の進め方について
 - (5) その他
- 5 閉会

■議事の概要

上田市長の挨拶、委員・事務局紹介の後、座長及び副座長の選任が行われ、座長には、内田和男北海道大学大学院経済学研究科長・経済学部長が、2名の副座長には、杉岡直人北星学園大学教授と公募委員の高田悦子氏が選出された。

続いて、事務局から計画の策定方針や市民会議の役割などについて説明の後、各委員から市民会議に臨む考えや札幌のまちづくりに関する意見が一人ずつ述べられ、積極的な意見交換が行われた。

最後に、今後の会議の進め方について事務局から説明があり、質疑応答がなされた。

■意見交換の概要：新まちづくり計画の課題等について

□「経済・雇用」について

- ・ 産業再生のために一時的にお金を出しつづけても、それが供給過剰になり、逆にだめになってしまうケースがあるそうだ。生産とそこに住む人たちの生活のバランスがとれていなければいけない。循環型社会というのは、必ずしもゴミの問題に限った話ではない。(高田委員)
- ・ 公的機関の中小企業支援の効率化、若い人がどんどん育つような起業家支援施策といったことを今度のまちづくり計画の中に取り入れていきたい。また、札幌の犯罪の増加が気になっている。若者の犯罪増加は、治安の悪化、景気の低迷や雇用問題と連動している。(田村委員)
- ・ 仕事柄、一般市民の方からの職場の問題の相談を受けており、この数年で雇用問題の相談件数が増え、内容も深刻化している。安定した雇用と生活していくための最低の収入

がなければ、札幌がどんなに芸術的・文化的なまちであってもそれらを享受することができない。（工藤委員）

- ・ 第3次産業でどのように札幌を活性化していくのか、市として、まちづくりとしてどのようにそれを活かしていくのかということに関心がある。また、製造業という観点から、活気のある製造業をどのようにサポートしていけるのか。そういったことについて考えていきたい。（平本委員）

□「共生・地域づくり」について

- ・ 札幌は環境が良く、また、バリアフリーという点についても大変発達している。地下鉄のシルバーシートはいつも空いていて、障がい者やご老人にとっては非常にありがたく、いつ乗っても空いているので、いつでも外出できるという気持ちになれる。ご老人や体の不自由な人が乗ってきたときに席を譲ればいいという意見もあるが、譲られる側は恐縮し、申し訳ないと思う。その意味で札幌の公共交通で専用席を設けていることは札幌の良心ともいえる。（木路委員）
- ・ 地域活動とボランティア活動をずっと続けてきているが、やはり、自分の住むまちは自分達で守り育てていかなければならない。また、これからを担っていく子供を大事にしなければならぬ。地域活動をするにも大人たちだけで決めるのではなく、子供たちと一緒に行事を考え、実行している。（黒田委員）
- ・ 藤野のむくどり公園（バリアフリー型の公園）の有効利用のために、自宅を開放してむくどりホームふれあいの会を作り地域活動を続けている。この活動は一つのテストケースとなると思うので、会議の参考になるような資料を提供していきたい。（柴川委員）
- ・ これまで地域福祉に取り組んでいる立場から、市長も強調されている連絡所単位のまちづくりの生活圏の中で、問題に取り組む仕組みをどのようにつくっていくか考えていきたい。（杉岡委員）
- ・ 一人の障害の子を育てていくときに、札幌の福祉は先進地域と比べると遅れているので、もっと優しいまちになってほしい。「心のバリアフリー」が大切。（燕委員）
- ・ 最近企業もバリアフリーについて、随分研究してきている。地域に合った建物、地域に合ったものづくりということについて考えていきたい。（荒委員）
- ・ 市民の声といったときに、実は弱い立場にいる人たちの声は上がりにくい場合がある。一時的にブームになって光が当たっても、それが過ぎると、注目されなくなってしまう。そうした人たちの声を代弁する形で何かお手伝いできればと考えている。（岩田委員）
- ・ 従来の弱者を全面的に保護するという福祉から、できることは全部やらせよう、ただし、そのための仕組みはしっかり作るという福祉に変わってきている。札幌でも、やみくもな供給過剰の福祉を行うのではなく、サービスの需要と供給がきちんとつながる仕組みができて、本当の意味での共生ができればと思う。（伊藤委員）

□「環境・都市機能」について

- ・ 札幌は他の都市と比べると、冬の遊び場が少ない。お金をかけずに楽しく冬を過ごすことができるすべについて考えてみたい。また、冬期間の公共施設の利用についても、他都市よりもっと進んでいくべき。これについては、委員会が冬にかけて開催されるので実験的なこともできるのではないかと。（大坂委員）
- ・ 市街地をコンパクトにする「コンパクトシティ」。市町村の長期計画とか、総合計画のなかに必ずといっていいほど出てくる言葉だが、実現するのは大変難しいまちづくり手法である。全国にさがけて札幌で実現させていきたい。（林委員）
- ・ 現在の札幌は、「ミニ東京」「ミニニューヨーク」とでもいうべき、コンクリートジャングルになっている。ほとんど人の歩かないところまでコンクリートを敷いている。木を切るのはもうやめて、木を1本切ったら別の場所に10本植えるといったことをして

いってほしい。（阿部委員）

- ・ 札幌の環境は良いが、だからといって何もしなくてもよいということはない。CO₂を排出しない雪対策や、まちなかでの自動車の交通量減少のための取組みなど、必要なことはたくさんある。また、個人的には自転車をもっと自由に使えるまちにできないかと思っている。（太田委員）
- ・ 札幌は子どもを持った家族が住みやすいまちという印象がある。札幌は歴史的、地形的にも素晴らしい魅力をもっているが、ここ数十年で、よいものがどんどん消耗されている。まちの景観等をきちんと意識してつくっていく、あるいは手入れをしていかないと、どんどん良さが失われてしまう。残すものもただ残せばいいというのではなく、新しく作るものと古いものをうまく共鳴させながら、これからの札幌のまちを育てていかなければならない。（中井委員）

□「文化・人づくり」について

- ・ 市長の「札幌を文化発信の地にしたい」という発言は非常に魅力的であり、札幌からどのようなものを発信できるか関心がある。（木路委員）
- ・ フリースクールの子供達が、どのようにしたら社会に出て行けるのか。札幌のまちの誇りある市民として自覚を持って生きていけるのか。これから社会に出て行く若者が夢や希望を持てるプランを作りたい。（杉森委員）
- ・ JRタワーという大きな商業施設ができた結果、札幌では、狸小路を中心に映画館がどんどんなくなっている。それは、市場原理で仕方がないことだが、地域の象徴的な建物がなくなること、自分の気持ちまでも変わってしまうのがやるせない。新しいものと古いものが同居できるまちづくりはできないかと考えている。（中島委員）
- ・ 北海道の地名、かつてはアイヌ語だったが今は日本語になっている。すべてにいわれがあるのだから、そういうこともまちづくりに生かして欲しい。（阿部委員）
- ・ 演劇活動に使用できるフリースペースを琴似で運営している。表現活動を通じて、地域にゆるやかな人のつながりを常につくりだしていくことによって、それが文化・教育や生活の大切な問題に取り組もうとするときの基盤づくりにつながるのではないかと考えている。（飯塚委員）
- ・ スポーツは、大きなメッセージを発信するメディア性を持っている。市民のスポーツ活動とコンサドーレ、日本ハム等とはどのような関係にあるのか、市民のスポーツの支援環境をどうやってつくるかといったことについて考えていきたい。（大沼委員）
- ・ 教育面では、まちづくり・市民参加ということが学校の副読本には全く書かれていない。今後の札幌を考えた時に、人材を育てる意味でも、教育にまちづくりを取り入れていくことは早急に進めていくべき。（中井委員）

□計画策定の方法等について

- ・ できるだけ会議を合理的に進めていくためにも、発言したいことのメモ等をもってくるというのではない。また、ビジョンをできるだけ市民にわかりやすく伝えるには、具体的なものを言葉にしていくことが重要。（中島委員）
- ・ 市民が共鳴できるまちづくり計画になることが重要。また、この3年間に何をするのか、次の3～5年間に何を繰り返すのかという優先順位をつけて議論をしていくことが必要。（平本委員）

■市民会議の進め方について（質疑応答）

- Q 分科会で専門的な分野ばかりになってしまわないように、途中で全体会議を一度入れたほうがいいのかと思うが。（中島委員）
- A 全体会議の意見が分科会に反映されない可能性があるのもそういう形の方がいいと思う。（内田座長）
- Q 分科会の進め方について。次回にメンバーを割り振るそうだが、そこに参加する事務局員・市の関係の方・コンサルタントの方の構成が知りたい。（林委員）
- A 基本的には委員の方々の会議なので事務局は後に控える形になる。分科会については、市役所内の各専門部署の職員も事務局として参加させていただくことになる。（事務局）
- Q 現在の市の財政状況や将来予測に関する詳しい資料を提供してもらいたい。（林委員）
- A 財政状況に関しては次回（第2回全体会議）に提示する。そこで、財政の中期見通しを用意し、提供する。（事務局）
- Q 議論の途中で色々と知りたいこともでてくると思うので、札幌市の行政に関する情報について、できるだけ早く報告してもらえ体制を整えてもらいたい。（林委員）
- A 関係部局の職員も会議に参加し、迅速に質問にお答えできるようにしていきたい。（事務局）
- Q あらかじめ参加者が簡単なメモを持ち寄るほうが効果的という中島委員の意見について。会議でどのようにとりあげるのか。（柴川委員）
- A 全体会議では、ほかの人の意見を聞きながら自分の考え方が修正されていくプロセスの中で一つになったものが出てくる方が望ましい。分科会では可能だと思うので、分科会ごとに決めていただきたい。（内田座長）
- Q 情報開示について守秘義務というものもあるのではないかと思います。どのように踏まえればいいのか。（高田委員）
- A 当会議は全面公開であるため、すべての情報・発言は市民に公開されるので委員の皆さんには責任を持っていただきたい。（内田座長）
- Q タウントークに関しての資料は用意してもらえるのか。他会議との連携は資料をもらう形での連携ということなのか。事前に資料を提供してほしい。（工藤委員）
- A タウントークの資料については提供する。他会議との連携も資料で提供する。資料はできるだけ事前に提供したいと考えている。（事務局）
- Q 会議の招集方法は常に市側から提示されるものなのか。分科会の進み方によっては、月に1、2回ではとても間に合わないという事態も想定されるが。（木路委員）
- A 基本的には市側からスケジュール等の調整をさせてもらう。分科会については弾力的に取り扱う必要がある。（事務局）
- Q 分科会のメンバーは指名になっているのか。（中島委員）
- A 割り振りは希望ではないと思う。基本的には分科会については、他の分科会日程も全員に知らせて、興味があれば出席していただくような形をとって構わないし、そのほうがいいのかと思う。（内田座長）
- Q 分科会のメンバーは決まっているのか。（燕委員）

A 正式には次回の会議で構わないが、今、口頭でお知らせ願えれば。（内田 座長）

A 要綱では座長が指名することになっているが、予定ということでお示ししたい。

経済・雇用～荒委員、内田委員、工藤委員、高田委員、田村委員、平本委員

共生・地域づくり～伊藤委員、岩田委員、黒田委員、柴川委員、杉岡委員、燕委員

環境・都市機能～大坂委員、太田委員、小林委員、中井委員、中島委員、林委員

文化・人づくり～阿部委員、飯塚委員、臼井委員、大沼委員、木路委員、杉森委員

（事務局）

Q 分科会メンバーについて。変更はきくのだろうか。（中島委員）

A 次回が正式決定だにご理解いただきたい。（内田座長）

■次回の市民会議の日程等

第2回全体会議

日 時 平成15年11月19日（水） 10:00～

場 所 すみれホテル